

I 覚醒と挫折

地球温暖化に警鐘を鳴らしている活動家と聞いて、みなさんは誰を思い浮かべられますでしょうか？ おそらく、スウェーデン出身の17歳の少女グreta・トゥーンベリでしょう。グretaさんは、昨年5月、タイムズの表紙を飾り、一躍時の人となりました。未来ある彼女は、フランスならぬ、地球を救うために立ち上がった、ジャンヌ・ダルクのようでもあります。そんなグretaさんの性別を男性に、年齢を中年に変えますと、あら不思議。今日ご紹介する吉田大八の映画『美しい星』の主人公と相成ります。『美しい星』は、グretaさんが脚光を浴びた2019年から遡ること2年前、2017年に公開された映画です。原作は、三島由紀夫が1962年に発表した同名の小説です。主人公を、リリー・フランキーが演じています。

映画『美しい星』の舞台は、ごく近い未来の日本です。その1月から、4月ごろまでを描いています。1月なのに、日本各地は4月並みの暖かさです。主人公は、先ほども申し上げましたように、中年男性の気象予報士です。毎日、テレビのニュース番組で、お天気コーナーを担当しています。彼は、あるとき、自分は火星であり、地球温暖化から地球を救うという使命に目覚めます。そうして、番組内で与えられている、気象予報士としての役割を超えて、視聴者に地球の危機について訴えるようになります。気象予報士は、予言者の末裔といってもよい存在ですが、主人公は、予言者であると同時に、救世主たれんとするのです。そんな主人公の名前は、「大杉重一郎」です。名前には、「大きすぎ、重すぎる使命を一人で担う」という意味合いが込められているといえましょう。ネーミングからも、主人公が救世主的存在であることが示唆されています。

地球で果たすべき使命に目覚めるのは、主人公だけではありません。妻、息子、娘の家族四人が、それぞれ太陽系の何とか星人として、使命に目覚めるのです。妻伊予子（中嶋朋子）は、地球人として、「美しい水」の販売に打ち込みます。知人の女性から「美しい水」を使った料理を振る舞われたら、おいしく感じて、自分でもその水を使ってご飯を炊いてみたところ、食欲がわいたからです。息子一雄（亀梨和也）は、水星人として、いつか選挙に出馬し、国会議員になりたいと思うようになります。大学生の娘暁子（橋本愛）は、金星人として、大学のミスコンに出て、地球の美の基準を正そうと考えます。暁子という名前は、明けの明星である金星の人にふさわしいといえましょう。

しかし、家族四人の覚醒は、すべて挫折に終わります。主人公は、ニュース番組にゲストとして出演していた「鷹森」という国会議員に食ってかかることで、番組をクビになり、謝罪も余儀なくされます。番組で、視聴者に地球温暖化を食い止めなければならない、と警告していたのですが、それがもはや不可能になります。伊予子が販売を促進していた「美しい水」は、和歌山の地下からくみ上げた水だとうたっていましたが、実は埼玉のゴム工場で人工的に作られていたことがわかります。「美しい水」の販売で手に入れたお金で、また家族で海外旅行に行きたいという夢も、打ち砕かれます。一雄は、国会議員「鷹森」の事務所で働いていたのですが、お払い箱になります。近い将来、鷹森の娘婿になって、選挙に出馬したいという夢はついでます。暁子は、妊娠が発覚することで、ミスコン優勝の夢は消えます。暁子は、処女のまま懐胎したと信じており、マリア的存在として描かれています。

II 冒頭と結末

映画は、イタリア料理店で、主人公の誕生日パーティーのシーンから始まります。レストランで、家族四人が食卓を囲みますが、それぞれの心はばらばらで、違った方向を向いています。主人公は浮気相手と電話するために、中座します。フリーターの一雄は、約束の時間が過ぎているのに、なかなか姿を現しません。娘の暁子は、食卓のオツブーコ子牛の骨付きすね肉の煮込み一に手を付けず、黙ったままです。妻の伊予子だけが、家族の心を一つにしようと、家族で行ったミラノ旅行のことを口に、また行きたいな、と言います。しかし、主人公から、そんな余裕はない、と言下に否定されます。

一雄がやってきたので、家族全員がそろったということで、ウェイターたちによって、歌を歌いながら誕生日ケーキが運び込まれます。しかし、主人公は不倫相手と電話していて、食卓にいません。映画は、こんなアイロニカルな設定で、幕を開けるのです。食卓にあるオツブーコは、直訳すると、「穴の開いた骨」という意味です。オツブーコよろしく、誕生日パーティーの主役が不在

である、そんな設定なのです。

では、結末ではどうなっているのでしょうか。結末をご紹介します前に、気象予報士として出演していた番組をクビになった主人公のその後を見てみましょう。番組解雇と時を同じくして、吐血し、病院で検査したところ、末期がんで余命一ヶ月ということが判明します。番組をクビになることで、主人公は経済的に窮地に陥りますが、肉体的な危機にも見舞われるのです。映画の中で、末期がんになる伏線を見つけることは容易です。主人公は下痢をし、正露丸を飲んでいますが、「食欲がないの？」と伊予子から聞かれています。主人公は、おそらく胃がんです。火星としての使命に覚醒した主人公は、地上の食物が消化できなくなっているのです。病院で、背中が痛いからと暁子に背中をさすってもらうシーンは、胃がんの苦しみに耐えかねていることを示すと同時に、地球温暖化から地球を救うという使命—いわば十字架—を背負いきれなくなったことのメタファーとも取れます。

残された時間がないことを悟った主人公は、家族三人の協力を得て、こっそり病院を抜け出します。そして、車と徒歩で、空飛ぶ円盤が来るという場所を訪れます。立ち入り禁止の看板を無視して、車で強行突破しているところから、目的地は福島原発の立ち入り禁止区域と思われます。家族に支えられながら、何とか山の頂上までたどり着いた主人公は、気づくと空飛ぶ円盤の中にいます。慌てて円盤の壁を開けて外を見ると、山の頂上に自分たち家族四人がいる姿が見えます。地球にいる四人を、円盤から眺めているシーンで、映画は幕を閉じます。このラストシーンは、主人公が地球人として死に、火星として復活していると解釈できます。主人公の誕生日のシーンで幕を開けた映画は、主人公の死と復活のシーンで幕を閉じるのです。映画は救世主の誕生と死と復活を描いているといえるのです。

冒頭で、てんでばらばらだった家族四人の心は、結末では、主人公に空飛ぶ円盤を見せたいという願いで、一つになります。しかし、家族の心が一つになるのが主人公の死に際してであるということは、冒頭の誕生日のシーン同様、アイロニーを感じさせます。

III 吉田大人の予言

今回、『美しい星』について考えておりますと、3年前の映画が予言したことが現実になっている、そんな気がいたしました。つい最近、1月なのに、東京の気温が18度と、春のような陽気になり、記録的な暖冬であるといわれています。映画の予言は的中していると言わざるを得ません。映画を作ったとき、監督は、最初は原子力発電の問題について訴える主人公を考えていたようです。しかし、それだと現実に即しすぎているということで、地球温暖化について訴える主人公へと変更したそうです。しかし、監督が設定を変更することで、むしろ映画は近未来の予言の書ならぬ、近未来を予言する映画たりえたといえましょう。

映画では、主人公の警告の中身は真に受けられることがありません。火星のポーズという、表現形式だけが、お茶の間で受けています。主人公は、道化として描かれているのです。しかし、現実はどうでしょう。グretaさんの警告は、“How dare you!”という言い回しだけでなく、内容も世界的に注目を浴びています。監督は、映画で中年の主人公を批評的に描いてみせましたが、現実には、若いグretaさんの警告が、世界の人々が真剣に受け止められています。人々の反応は、現実には監督が考えているほどシニカルなものではなかった、ということかもしれません。いずれにしましても、今ここで観る映画としてぴったりではないか、そう思います。